

報告書名：世界保健機関（WHO）との協力研究

- 21世紀のグローバルオーラルヘルスストラトジーの構築 -

研究者名：小川祐司¹、Poul Erik Petersen²、宮崎秀夫¹

所 属：新潟大学歯学部附属病院口腔保健科¹、WHO Oral Health Programme²

目 的:

本研究はWHO Oral Health Programme と協力の下、国や地域の枠を越えてグローバルな視点から歯周疾患罹患ならびに Common Risk Factor である Tobacco 喫煙および Diabetes 罹患について比較を行い、21世紀のグローバルオーラルヘルスストラトジー構築のための指針を得ることを目的とした。

方 法:

本研究ではまずPubMedを用いて「Community Periodontal Index (CPI) または Community Periodontal Index and Treatment Needs (CPITN)」 および「Periodontal disease または Periodontitis」 をキーワードに1998年～2003年までに発表された839研究調査について文献レビューを行い、疫学研究でかつ CPI 表示のあった33研究結果について、「WHO Global Oral Health Data Bank」に新たに登録した。次いで35-44歳、65-74歳の年齢群を対象として、「WHO Global Oral Health Data Bank」から歯周疾患の罹患についてWHO Regions (AFRO、AMRO、EMRO、EURO、SEARO、WPRO)別に比較を行った。また Common Risk Factor である Tobacco 喫煙および Diabetes 罹患については、「WHO Non-communicable Disease Info Base」を用いてWHO Regions 別に比較を行った。

結 果:

歯の喪失原因となる重度の歯周疾患(CPI 4)罹患率はAFRO、EURO、SEARO、WPROにおいて35-44歳、65-74歳の両年齢群ともに5%～20%、EMRO*では35-44歳で5%であったのに対し、AMRO では35-44歳で25%、65-74歳で45%の罹患率が認められた(EMRO* 65-74歳の罹患率不明)。Tobacco 喫煙(Current smoking)率は、35-44歳ではAFRO、EMROにおいて20%前後の喫煙率であったのに対し、AMRO、EURO、SEARO、WPROでは30%以上の喫煙率であった。また、65-74歳ではSEAROにおいて25%の喫煙率が認められ、その他のRegionsでは10%～20%の喫煙率であった。Diabetesは、35-44歳にてEMROで17%の罹患率を示し、AFRO、AMRO、EURO、SEARO、WPROにおいては各々5%未満の罹患率であった。一方65-74歳ではEMROで35%の罹患率を示し、AMRO、EURO、WPROの特に工業先進国において10%～15%の罹患率が認められた。

結 論:

本研究から歯周疾患罹患、Tobacco 喫煙率、Diabetes 罹患はグローバルレベルでかなりの差異があることが明らかになり、グローバルオーラルヘルスストラトジーを構築する上で各々の罹患状況に応じた施策目標の設定が必要であることが示された。